

小菅村人口ビジョン

2026年3月改訂

山梨県小菅村

目次

1. 小菅村人口ビジョンの改訂にあたって	…	02
2. 小菅村の人口の現状分析		
(1) 人口の推移	…	03
(2) 人口構成の推移	…	05
(3) 人口動態	…	07
(4) 1／2村民の状況	…	12
(5) 1／3村民の状況	…	14
3. 国立社会保障・人口問題研究所による最新の人口推計	…	15
4. 人口推計のパターン検討	…	16
5. 小菅村が目指す人口ビジョン	…	22
6. 小菅村が目指す姿	…	23

1. 小菅村人口ビジョンの改訂にあたって

■ 改訂の背景

小菅村の人口ビジョンの第1版は2015年12月に策定されました。背景には日本全体で2008年頃をピークとして人口減少局面となり加速度的に減少が進行する予想がなされる中で、国全体、特に地方の人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力のある社会を維持していくことを目的とした「まち・ひと・しごと創生法」を公布（2016年）と、これに伴う「まち・ひと・しごと長期ビジョン」の策定がありました。

小菅村においても当時の人口減少は毎5年で40人～60人、特に2005年から2010年にかけては200人もの減少がありこの現象に歯止めをかけるためのものとして人口ビジョンを策定をしました。また、小菅村の目指す姿として、村民アンケート等の結果から、小菅村では2060年に700人の村を維持することがビジョンとして掲げられました。

一方、国全体ではその後も継続して人口は減少しており、2020年の国勢調査の結果を用いた推計では、2045年には1億880万人、2056年には1億人を割って9,965万人になるとされています。本村においても多くの取り組みを行っていますが、全体の人口構造上、人口の減少は避けられません。

人口ビジョン（第1版）の策定から10年が経過し、社会環境が変化するなかで、本村として現在の状況を改めて見直し、村として目指す姿を村内外と共有し共創をしていくため、この度の人口ビジョンの改訂に至りました。

■ 小菅村人口ビジョンの対象期間

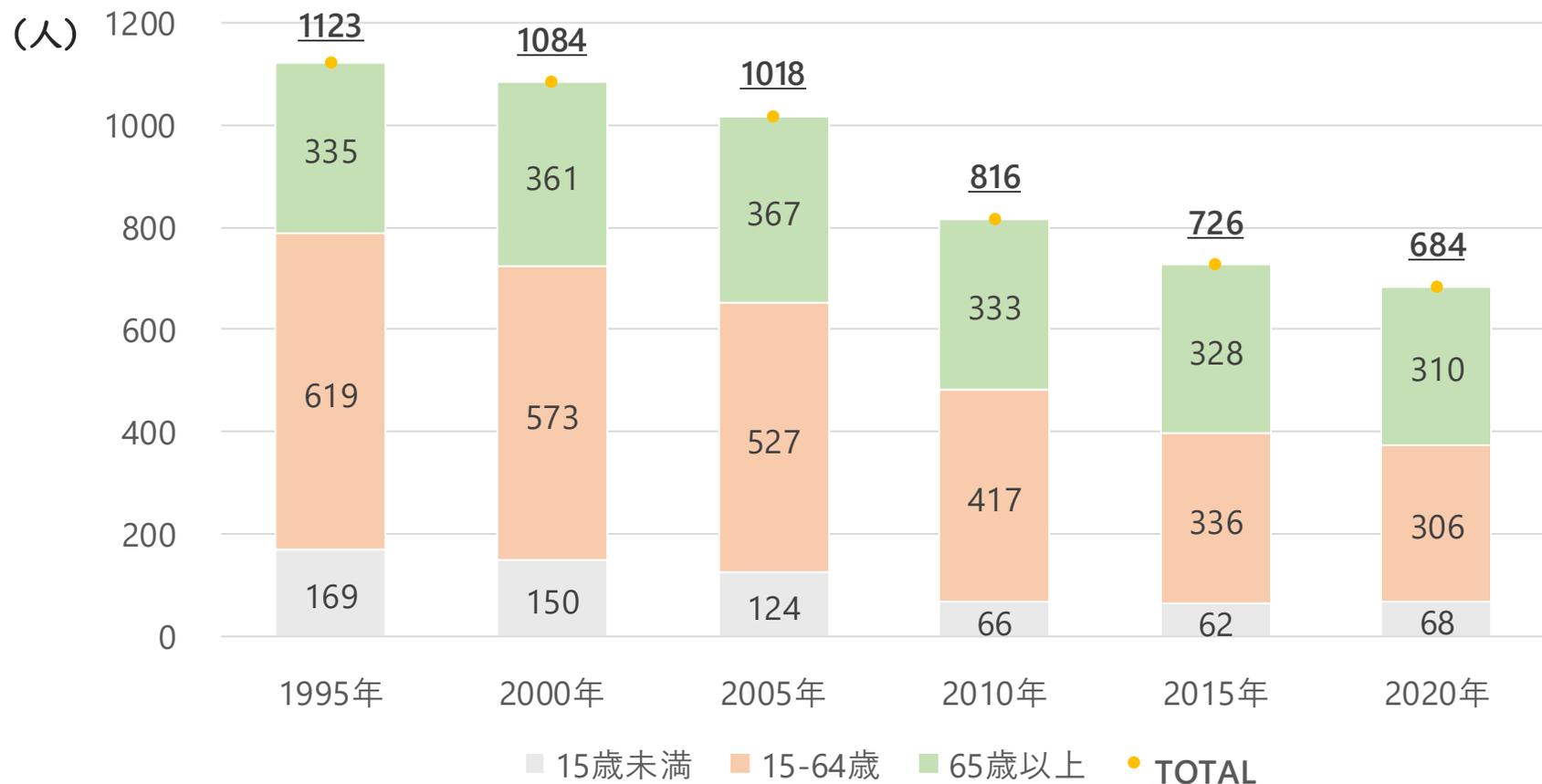
「小菅村人口ビジョン」では、国の長期ビジョンの目標年である2060年までの期間を対象とします。

2. 小菅村の人口の現状分析 (1) 人口の推移

人口減少は継続しているが、2015年から2020年の減少程度はやや緩和

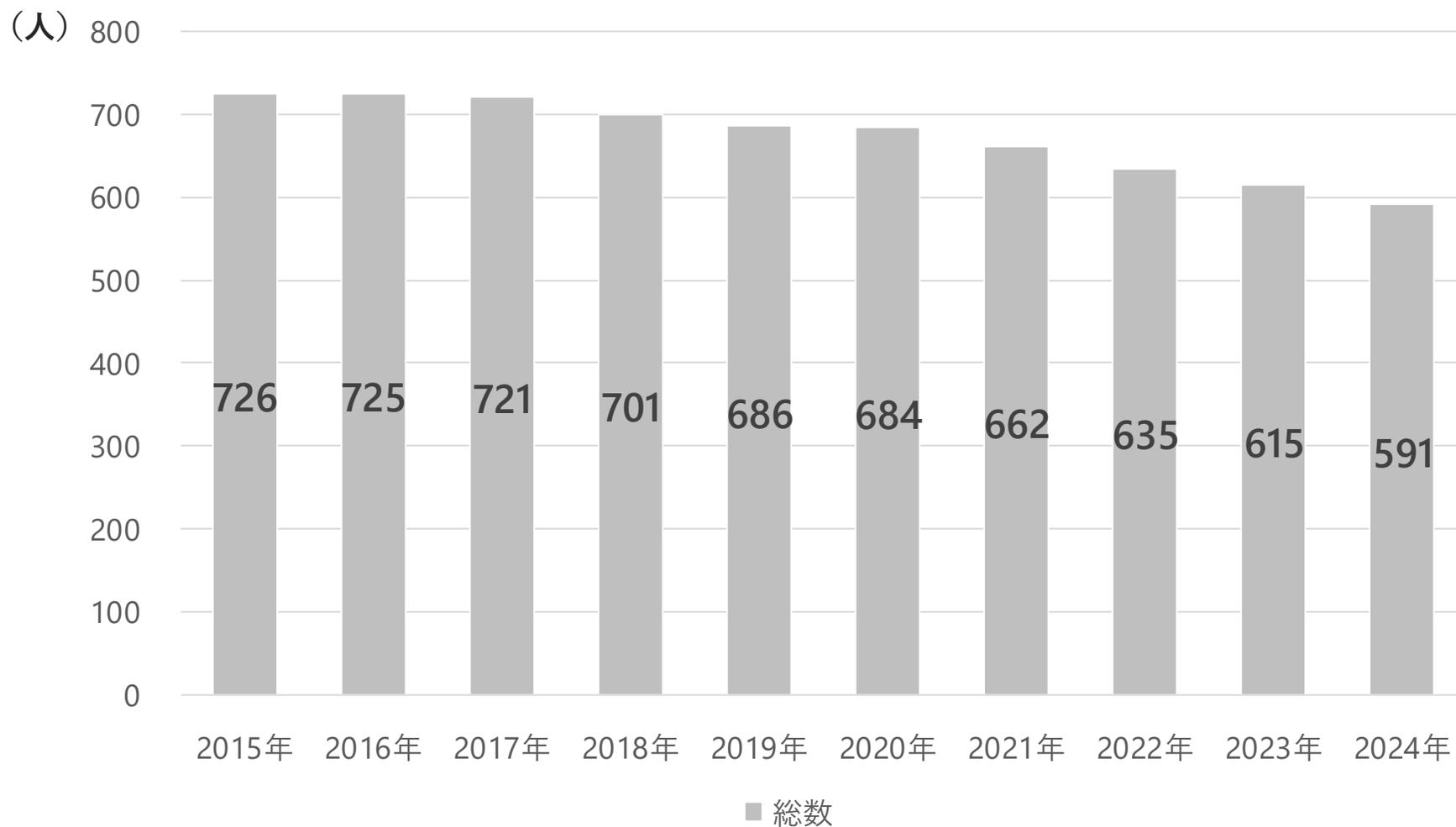
- 人口の減少傾向は継続しているが、2010年→2015年が▲90人であったのに対して、2015年→2020年は▲45人と減少スピードはやや緩和された。
- 年齢別人口では、15歳以下の人口が2010年以降下げ止まっている一方で、15～64歳人口の減少率が高い。

■小菅村の人口推移（全体と年齢3区分）



(参考) 住民基本台帳上の小菅村の人口推移 (各年10月1日時点)

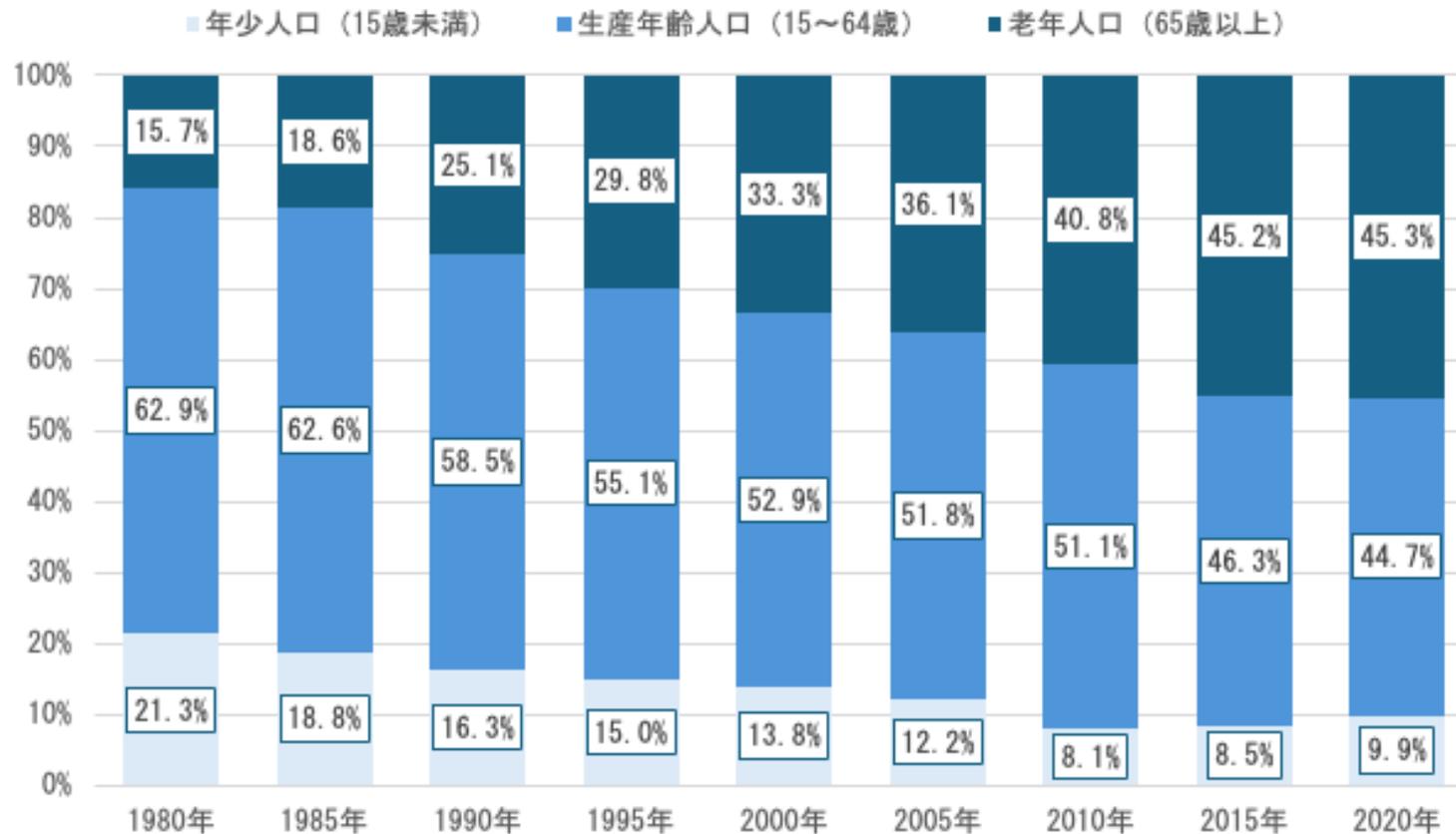
人口の減少傾向は継続2020年以降、各年20人前後の減少が続く



年齢別人口構成では、2020年に老年人口が生産年齢人口を上回る

- 人口における年齢別構成を見ると老年人口の割合が高まっており、2020年には15～64歳人口の割合を65歳以上の人口割合が上回っている。

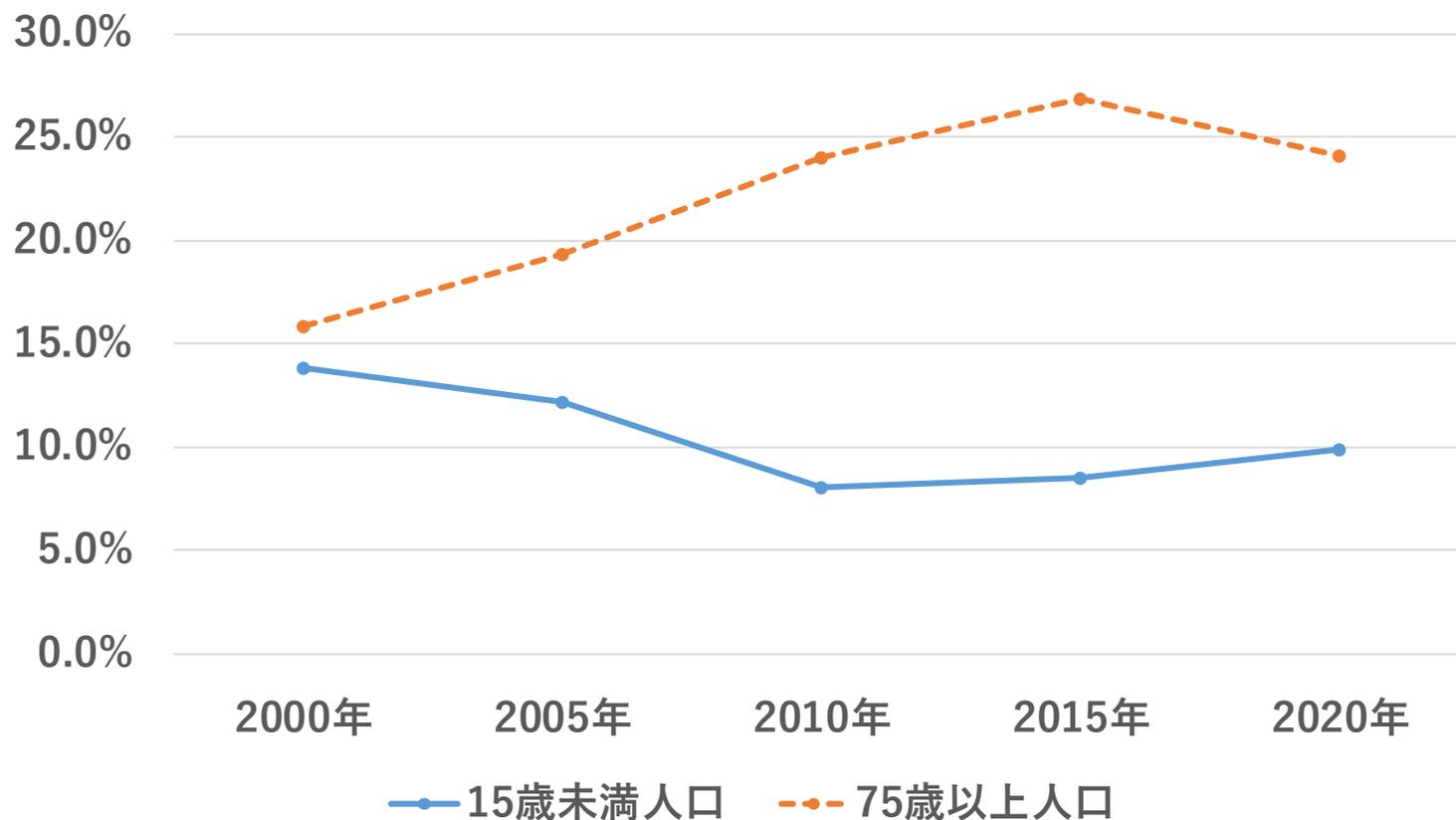
■ 小菅村の人口における年齢3区分の割合



2020年に75歳以上の割合が微減し、15歳未満の割合が微増

- 2010年と比較して15歳未満の割合が微増、75歳以上人口が2015年から微減をしている。

■小菅村人口における15歳未満と75歳以上の割合の推移

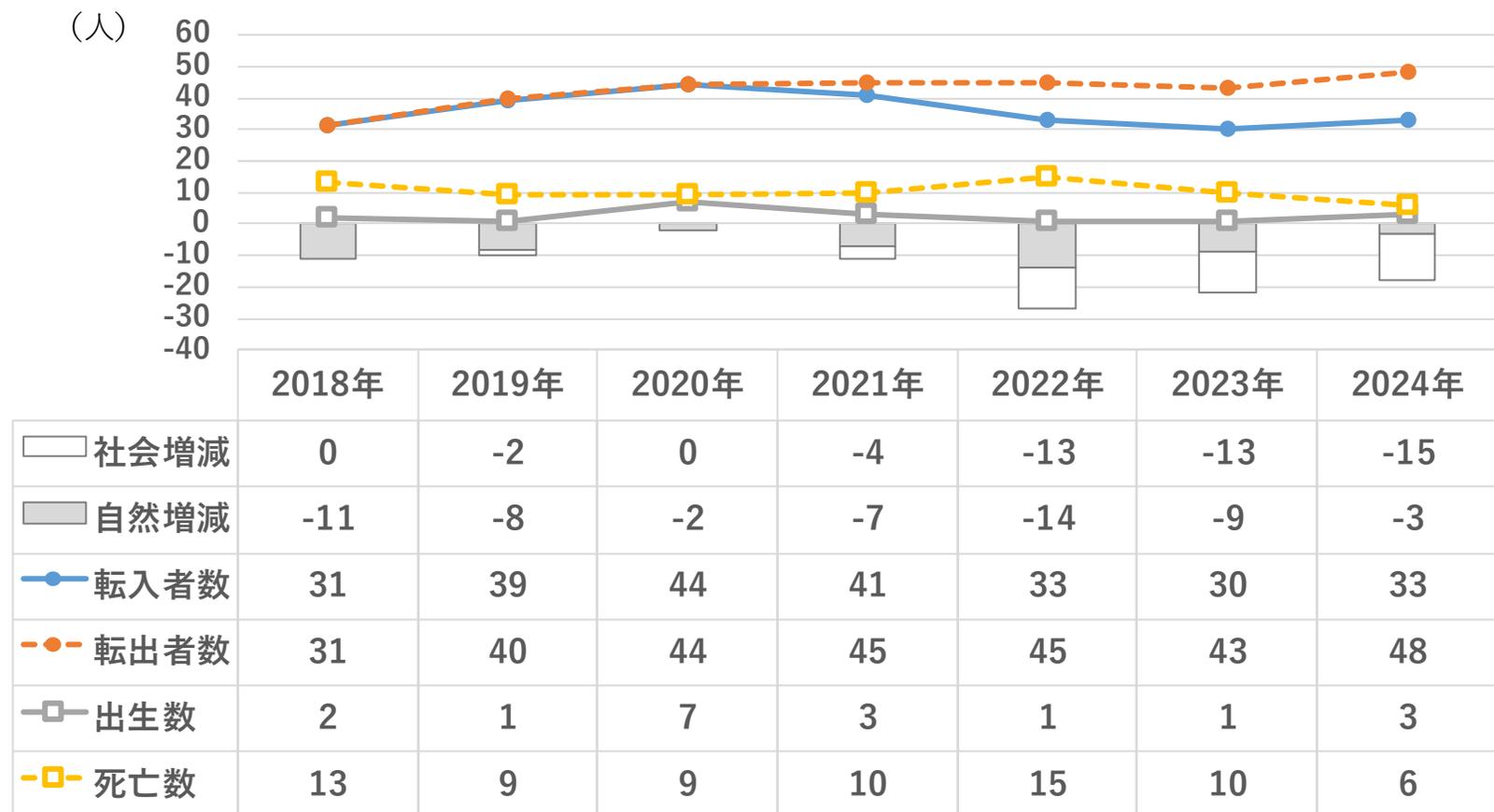


【出典】総務省「国勢調査」

自然減、社会減により毎年20人程度減少している。

- 小菅村は2020年まで転入と転出がバランスした期間が続いたが、2022年からは再び社会減の傾向となっている。また、自然増減については若年層が少ない村の構造上、出生数を死亡数が上回る自然減の状態が続いており、直近3年間は社会減と自然減が同時進行で進んでおり毎年20人程度人口が減少している。

■小菅村の自然増減と社会増減

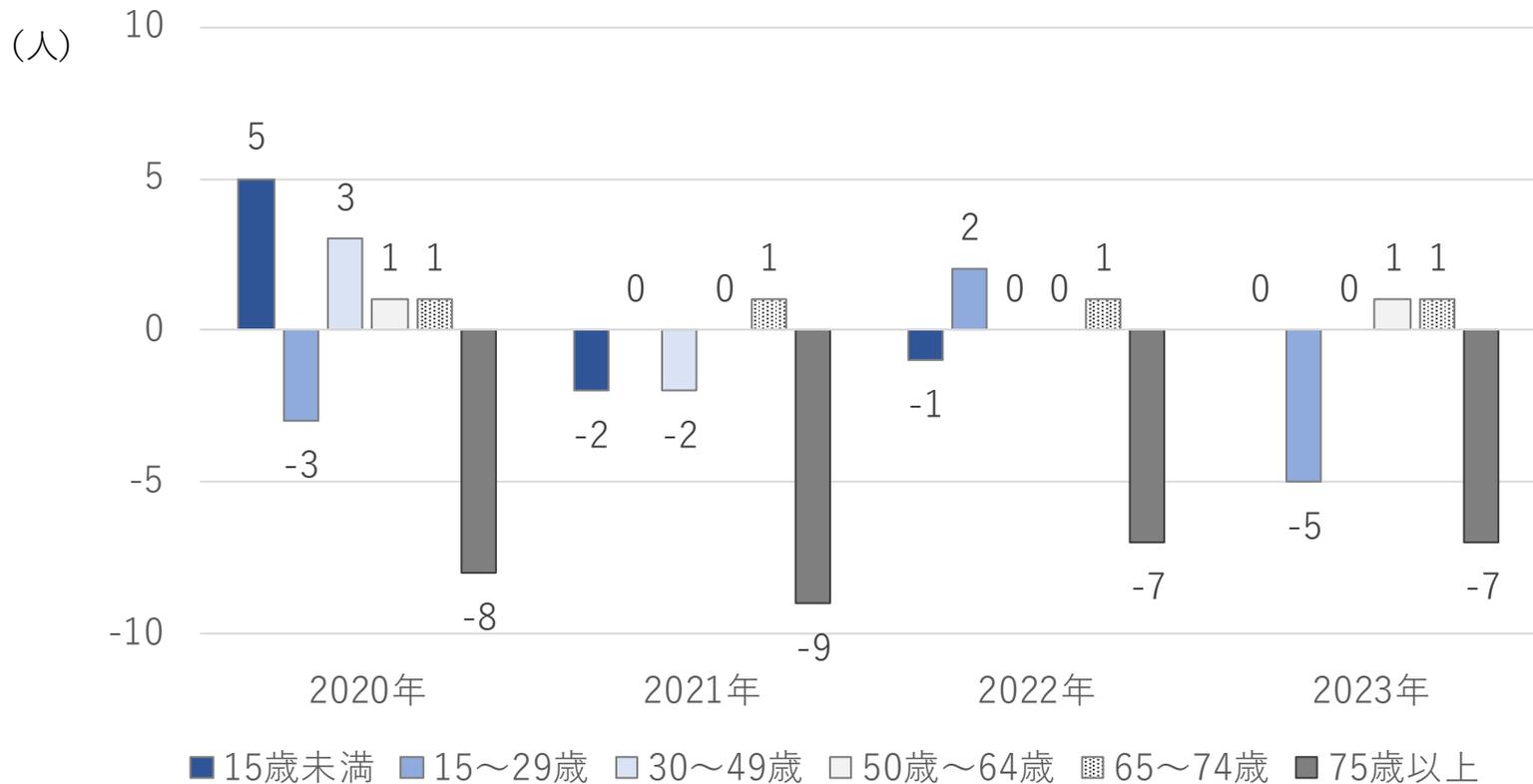


【出典】 出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

最も多い転出超過は75歳以上だが、49歳以下の転入超過も減少している。

- 小菅村の社会増減を年齢別に見ると以下の通りとなっている。最も転出超過となっているのは75歳以上の年齢層で74歳以下では経年で同様の傾向とはなっていない。ただし、2020年は74歳以下の転入超過は10人であったが直近では-3人~0人の間となっている。

■小菅村の年齢別転入（出）超過数



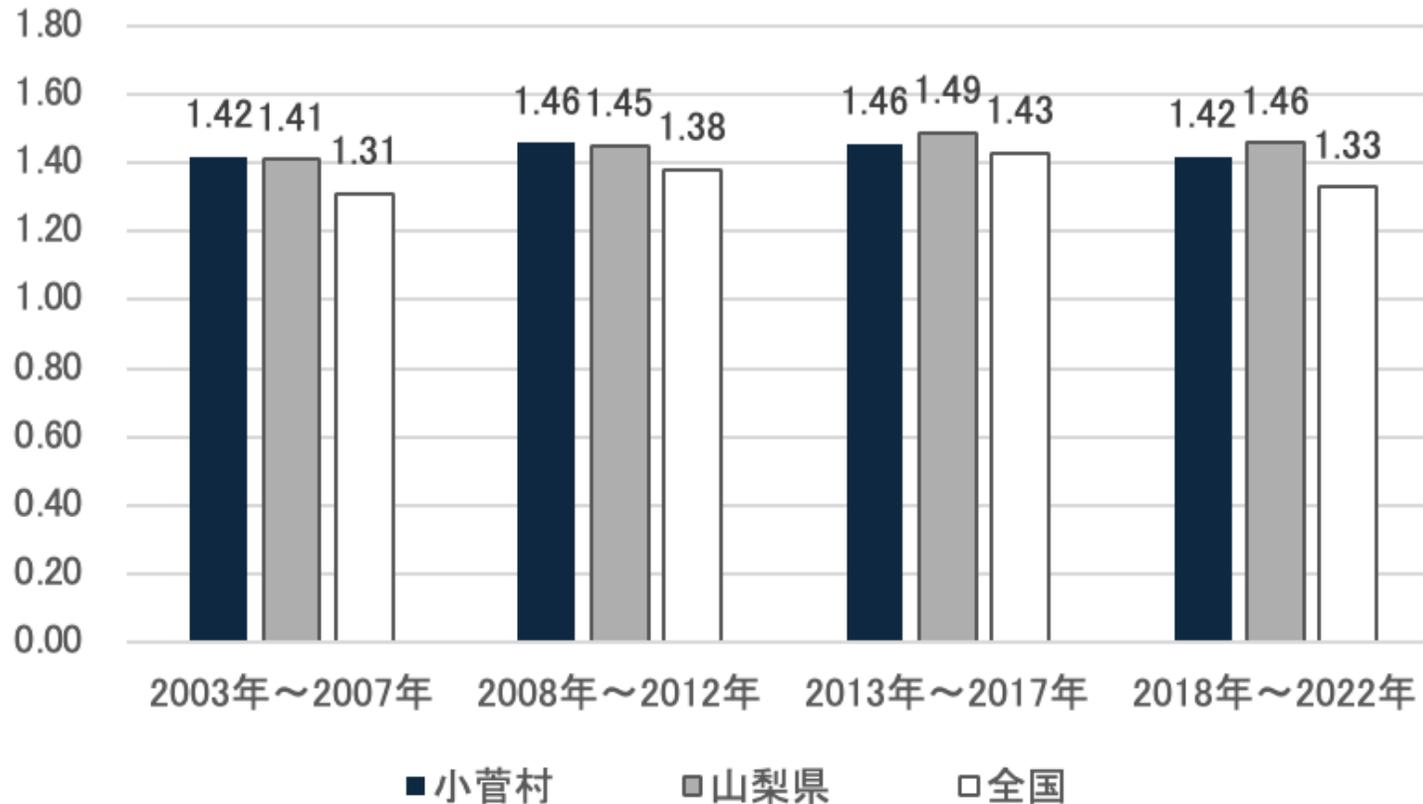
【出典】総務省「住民基本台帳移動報告」（国内移動人数）

※住民基本台帳移動報告では国内で移動した人を集計するため、村全体の社会増減の合計値と一致しない場合がある。

小菅村は山梨県と概ね同程度の合計特殊出生率を保っている

- 小菅村の出生率は直近4回の発表で大きな変動はなく、概ね1.4超の数値となっている。全国が減少傾向にあることを鑑みると比較的高い数値を保っている。

■小菅村、山梨県、全国の合計特殊出生率



【出典】人口動態等統計特殊報告

※母数がすくなく単年ではブレが生じやすいため、ベイズ推計値を採用している

2. 小菅村の人口の現状分析 (3) 人口動態

合計特殊出生率の母数となる女性の数は減少している。女性が住みやすい環境づくりに取り組むことが必要。

- 合計特殊出生率の母数にあたる15～49歳の女性の人口が2000年から2020年にかけて半数程度になっているため、自然減の緩和には当該年代の女性の社会増または転出抑制が必要である。

■小菅村 15-49歳の女性人口の推移

	15～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	合計
2000年	18	8	15	29	24	28	34	156
2005年	18	21	14	18	27	21	26	145
2010年	18	7	11	12	14	22	17	101
2015年	5	16	6	15	16	14	17	89
2020年	6	7	17	10	11	20	16	87

【出典】国勢調査

2. 小菅村の人口の現状分析 (3) 人口動態

小菅村は周辺町村と比較して昼間人口が多い。

村内で働く人が村づくりにアクセスしやすい環境を整えることが必要。

- 小菅村の昼夜間人口比率を見ると、山梨県の平均または周辺町村よりも昼間人口の方が高い傾向が続いており、村外からの働き手が多いことがわかる。

■小菅村及び周辺市町村の昼夜間人口比率

	H27			R2		
	昼間 人口(人)	夜間 人口(人)	昼夜間 人口比率	昼間 人口(人)	夜間 人口(人)	昼夜間 人口比率
小菅村	738	726	102%	691	684	101%
山梨県	828,495	834,930	99%	803,946	809,974	99%
大月市	22,799	25,419	90%	20,745	22,512	92%
上野原市	24,070	24,805	97%	22,354	22,669	99%
丹波山村	551	563	98%	506	530	95%

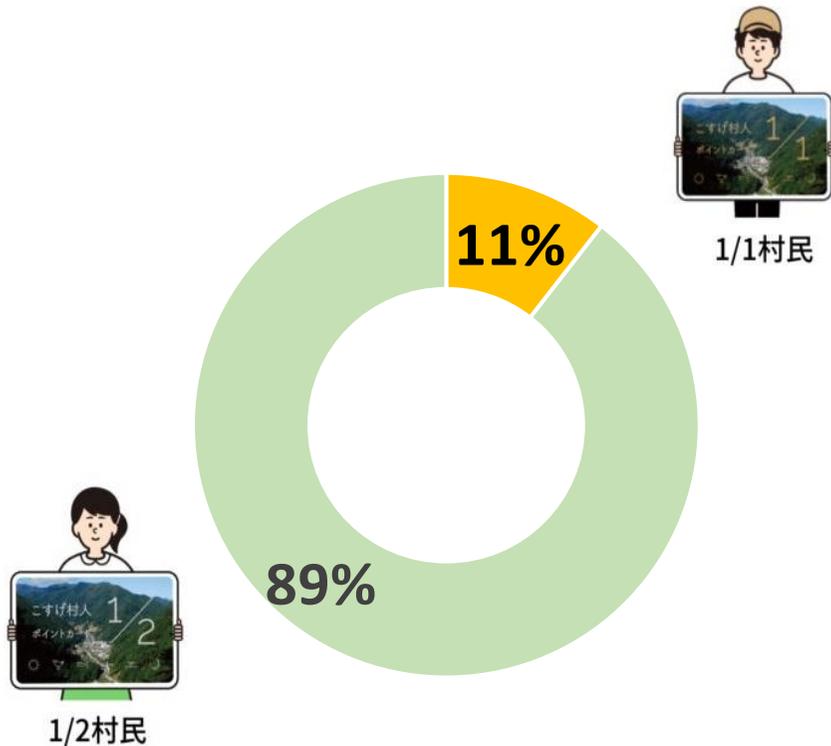
【出典】国勢調査

2. 小菅村の人口の現状分析 (4) 1/2村民の状況

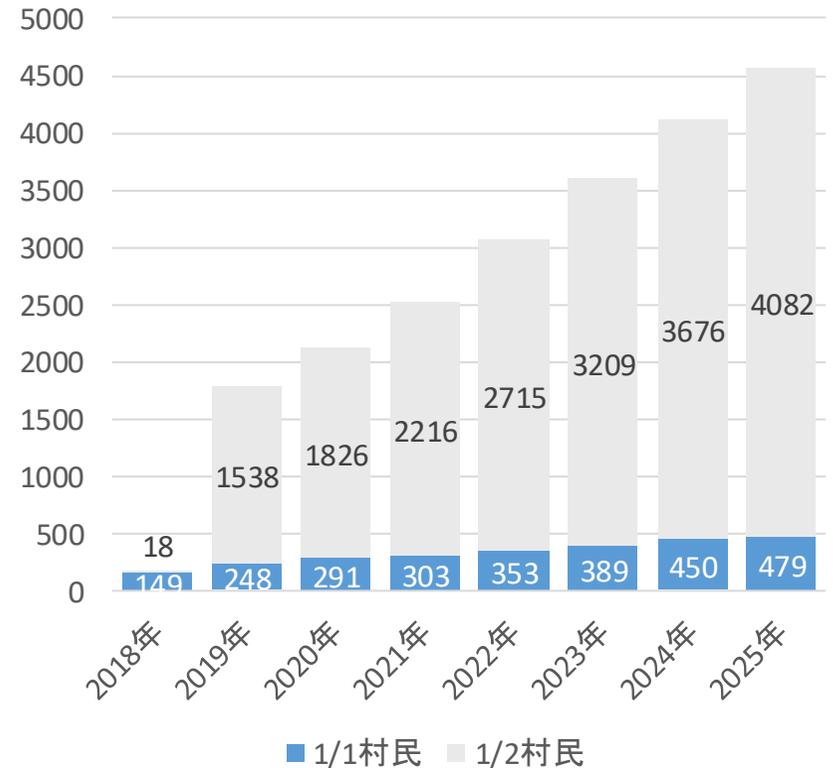
1/2村民の数は毎年増加しており、2025年に4,000人に到達した。

- 小菅村分数村民制度を体現する「こすげ村人ポイントカード」は2018年に運用を開始し、2024年には4,000人を超える登録となった。
- 村民カードの所持割合は1/1村民が11%、1/2村民が89%の割合で、2025年には1/2村民が4,000人を超えた。

■村民カードの所持割合



■村民カードの利用者数の推移 (2025年は10月現在)

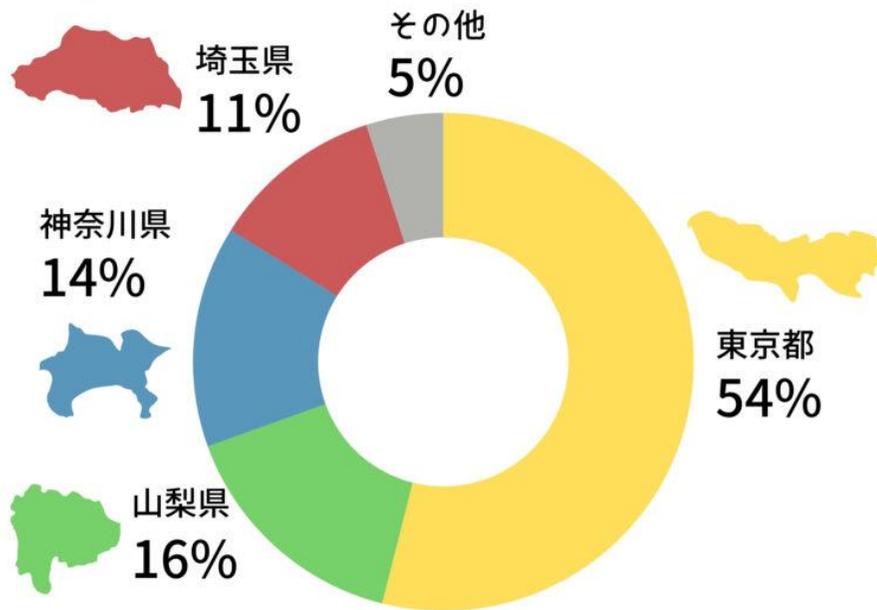


2. 小菅村の人口の現状分析 (4) 1/2村民の状況

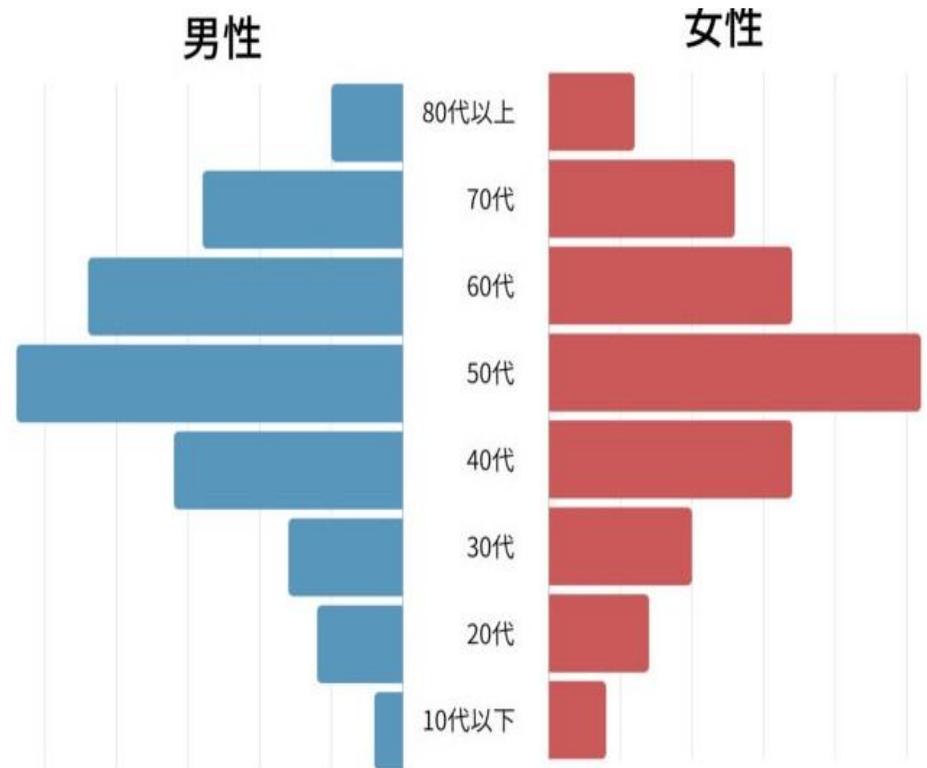
近隣地から多くの関係人口を獲得できている。年齢層も幅広い。

- 1/2村民の内訳を見ると、東京都在住者が54%、山梨県が16%、神奈川県が16%となっており近隣地において、多くの関係人口を得ることができている。

■ 1/2村民カード利用者の居住地



■ 1/2村民カード利用者の性別・年齢層

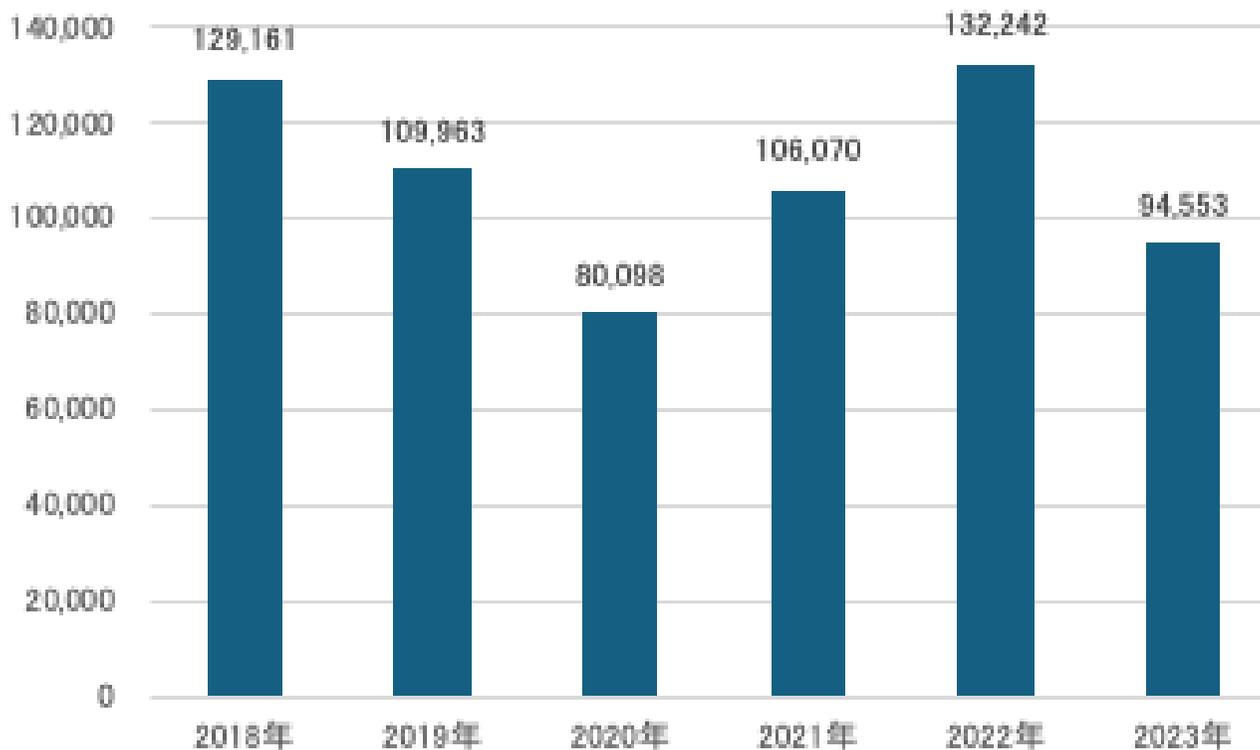


【出典】こ、すげえー「開始から6周年！毎年500人ずつ人口増加するこすげ村人ポイントカードとは？」
(<https://ko-kosuge.jp/tourism/19437/>)

1/3村民の数はコロナ禍後にやや低調となっている。

- 小菅村における観光客数はコロナ禍において急激な減少を見たものの、マイクロツーリズム等の高まりにより2021年には早々にコロナ以前の値まで復調した。しかしながら、2023年以降本格的に全国への旅行行動が高まったことも背景に、入り込み客数は低調となった。

■小菅村への観光入り込み客数

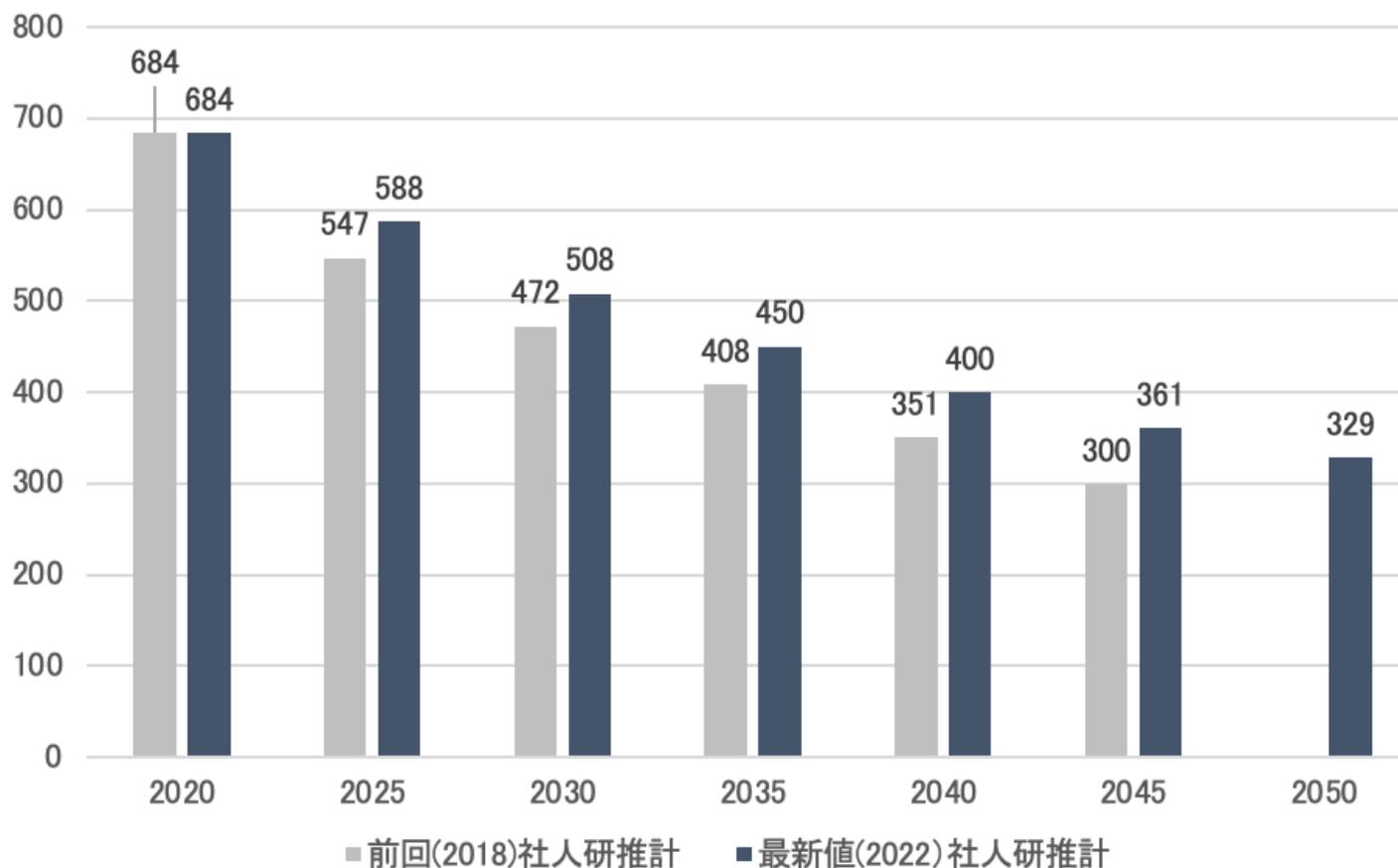


【出典】山梨県観光入込客数調査

第2期推計時点よりも第3期推計時時点の方が減少スピードが緩和している

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2015年の国勢調査結果を元とした2018年公表の社人研推計と比較して2020年国勢調査結果を元とした最新の推計値を比較すると今回調査結果の方が推計人口の値が上昇している。これは、移動率が改善したものによると考えられる。

■社人研による小菅村の人口推計



【出典】 国立社会保障・人口問題研究所

4. 人口推計のパターン検討

① 人口推計のパターン設定

- ・ 小菅村の今後の人口ビジョンを検討するにあたり、複数のパターンを試行する。
- ・ パターン検討にあたっては、総合計画で設定されている2031年に680人の目標値及び、毎年6人の転入超過の2パターンも含めた推計を行う。
- ・ あわせて、社会増減ゼロのパターンについても検討する。

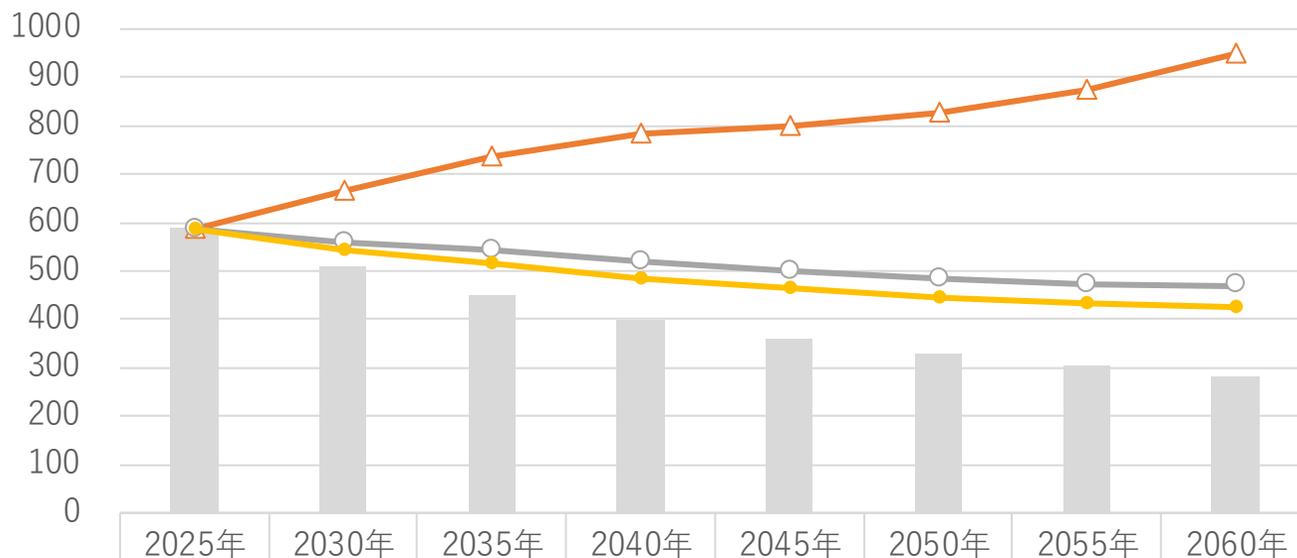
No.	パターン	内容
1	社人研推計パターン	・ 社人研が推計する、現在の移動率及び生残率、合計特殊出生率等が継続するパターン
2	総合計画目標人口パターン	<p>・ 2031年に680人の人口を目標とするパターン</p> <p>※ 現行の小菅村の人口ビジョンでは、2060年の目標人口を700人としており、経過年での2030年の人口を679人としていた。</p> <p>(50歳以下の移動率改善が20%以上改善、年間30人前後の転入超過) (合計特殊出生率が2030年には1.8に達し継続して1.8を維持する)</p>
3	計画最終年に転入超過6人(総合計画目標)	<p>・ 計画最終年に転入超過6人となるパターン</p> <p>(主にファミリー世代、子育て世代、セカンドライフ世代(50~60代)への流入促進、流出抑制等により年間6人程度の転入超過、2031年に転入超過6人以上を目指す) (合計特殊出生率が現在の1.42以上の1.50を維持する)</p>
4	社会増減ゼロ(今回設定)	<p>・ 社会増減ゼロ</p> <p>(主にファミリー世代、子育て世代の流入施策、50歳代以上の転出抑制により転出超過をゼロにする) (合計特殊出生率が現在の1.42以上の1.50を維持する)</p>

4. 人口推計のパターン検討

社会増減ゼロは2040年に、転入超過+6人は2050年に400人台となる。

- 先ほど示した推計パターンをグラフ化すると以下の通りとなる。
- 2031年に680人を目指すには、2025年から2030年に向けて80人以上の人口を増やす必要がある。
- 一方で、総合計画で目指している2031年（総合計画目標年）に+6人の転入超過の場合は減少程度を緩和させることができる。

■各パターンの推計値



	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
■ パターン1：社人研推計	588	508	450	400	361	329	304	282
▲ パターン2：独自推計（680人基準）	588	665	737	784	799	825	873	948
○ パターン3：独自推計（純移動で目標年に+6人）	588	557	545	518	501	483	474	471
● パターン4：社会増減ゼロ	588	543	517	485	466	445	432	424

【出典】パターン1：国立社会保障・人口問題研究所 パターン2～4：小菅村が独自に推計

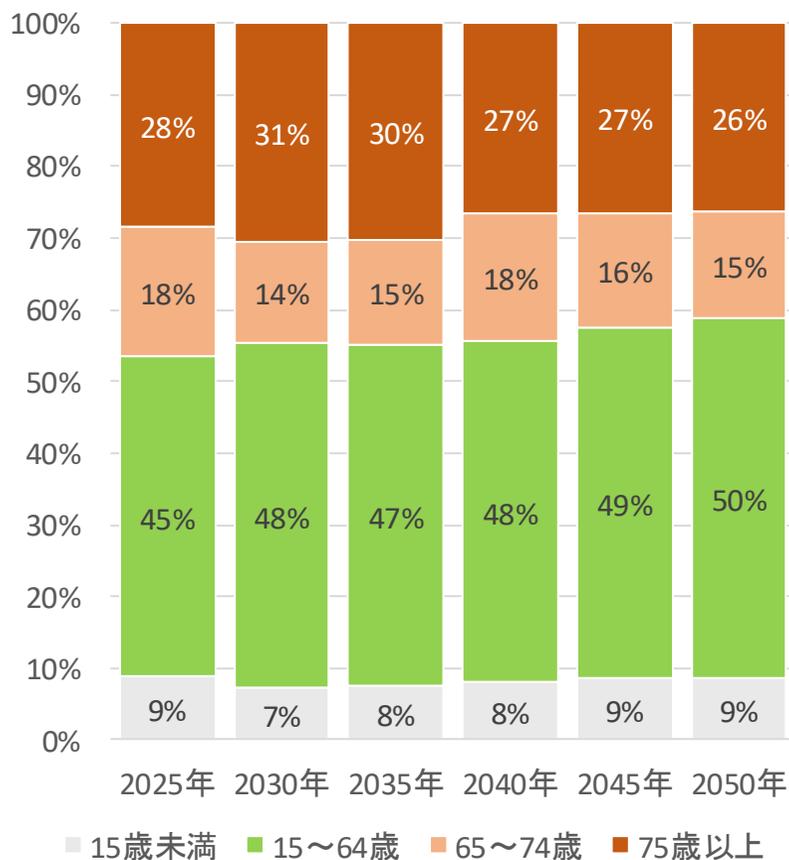
4. 人口推計のパターン検討

現状のまま推移するパターン1では年少人口の割合が増えない

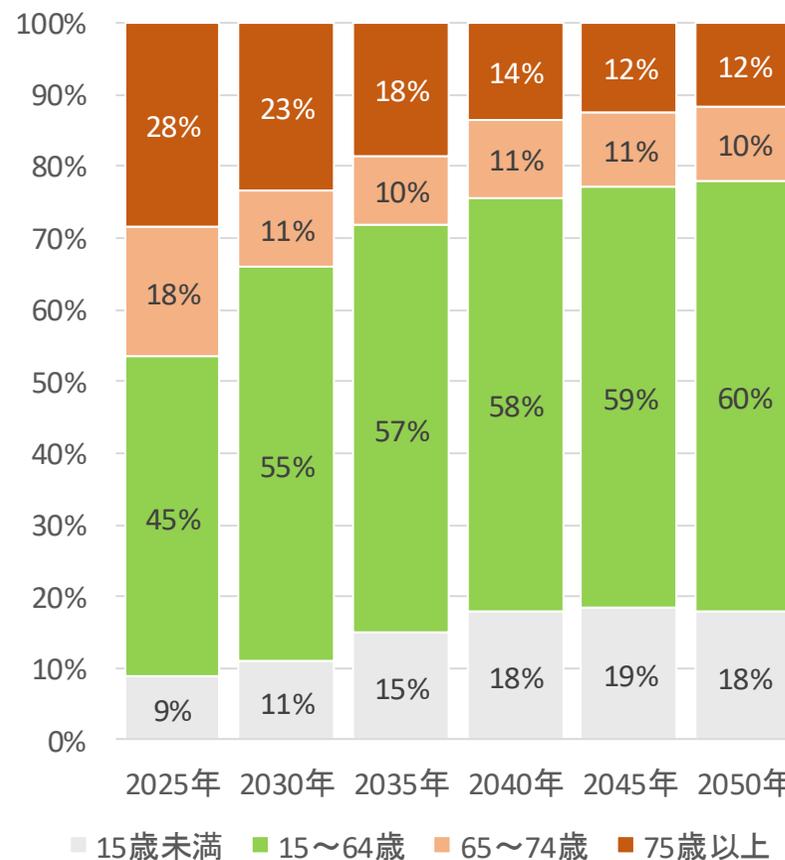
- 現状のまま推移するパターン1では、年少人口の割合が増えない。
- パターン2は2025年から2030年の間に大幅な転出超過を目指すため、以降の年少人口の割合が大幅に増える。

■各パターンの推計値

パターン1：社人研推計パターン



パターン2：総合計画目標パターン



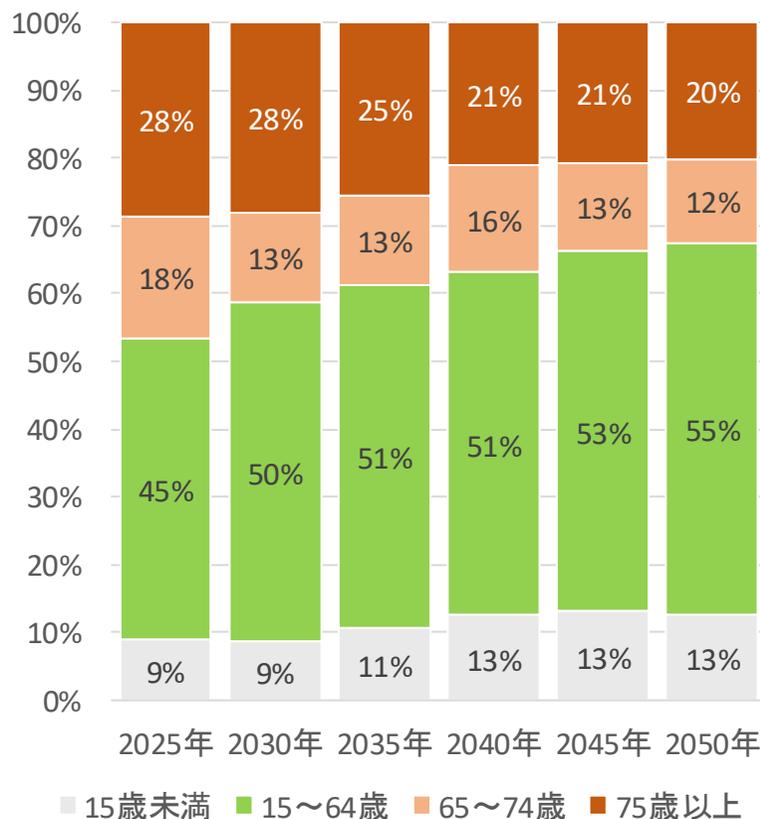
4. 人口推計のパターン検討

パターン3（転入超過+6人）の方が年少人口の伸び率が早い。

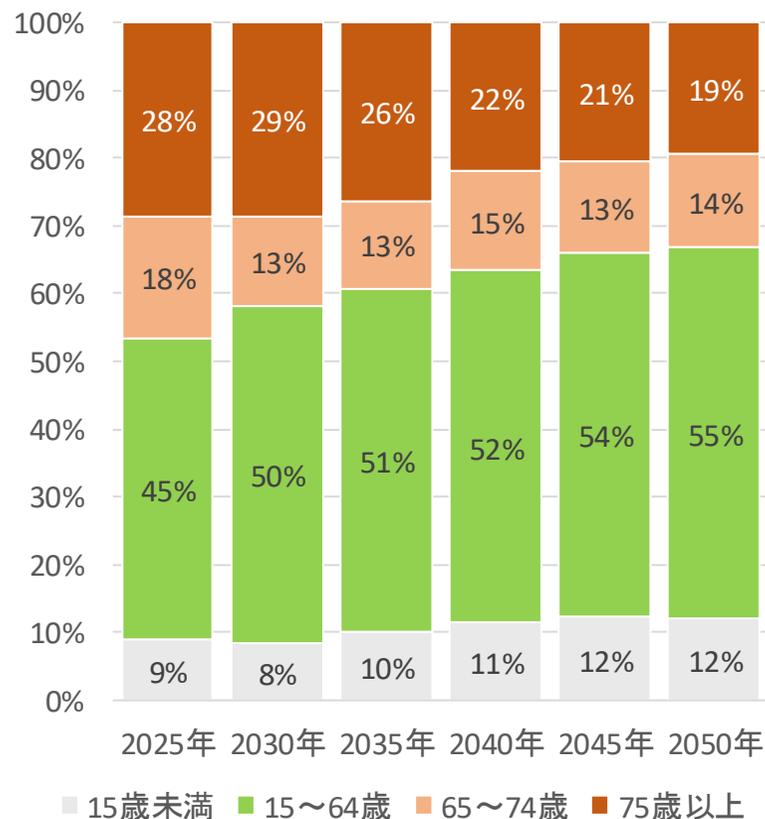
- パターン3、パターン4に大きな違いはないが転入超過の設計をしている分、パターン3は少しずつ年少人口の割合、生産年齢人口の割合が増える。

■各パターンの推計値

パターン3：転入超過6人目標パターン



パターン4：社会増減ゼロ以上



4. 人口推計のパターン検討

パターン1は2030年に年少人口が40人を切る

- 各パターンの年齢区分別の人口を見ると現状のまま推移するパターン1ではと年少人口が2030年に40人を切る。
- パターン2では、2035年時点で年少人口が100人を超える。

■各パターンの推計値

パターン1：社人研推計パターン

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
15歳未満	52	37	34	32	31	29
15～64歳	261	245	214	190	177	165
65～74歳	106	72	67	71	57	49
75歳以上	167	155	136	106	96	86

パターン2：総合計画目標パターン

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
15歳未満	52	73	110	141	148	147
15～64歳	261	366	420	452	468	497
65～74歳	106	72	71	85	84	84
75歳以上	167	155	136	106	99	97

4. 人口推計のパターン検討

パターン2、3では年少人口が現状の50以上を維持し続ける

■各パターンの推計値

パターン3：計画最終年に転入超過6人

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
15歳未満	52	48	58	65	65	61
15～64歳	261	280	275	262	267	265
65～74歳	106	73	73	81	65	60
75歳以上	167	156	138	109	104	97

パターン4：社会増減ゼロ以上

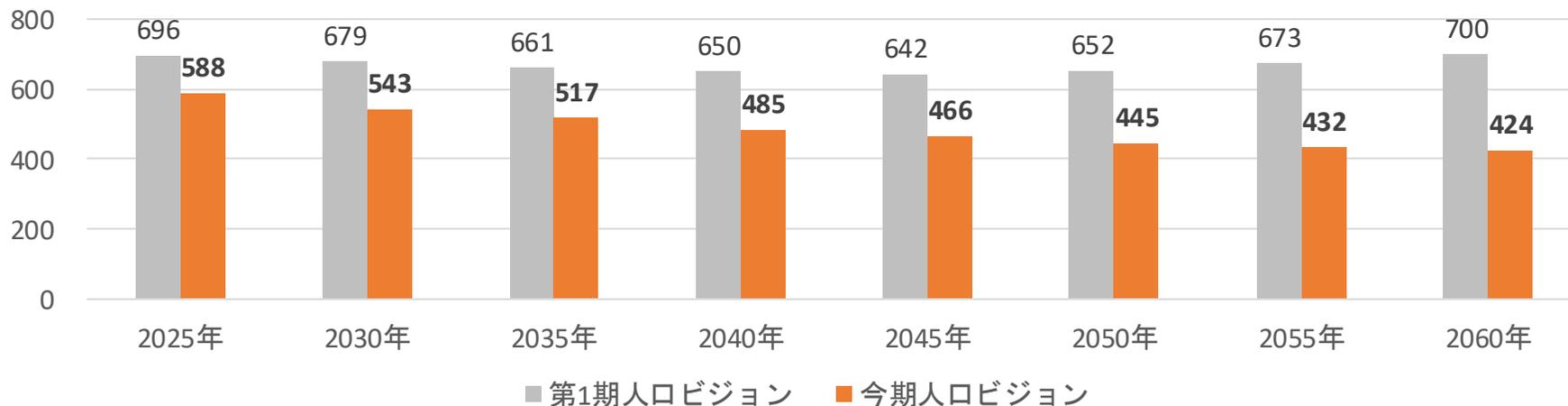
	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
15歳未満	52	46	51	55	57	54
15～64歳	261	271	263	252	251	243
65～74歳	106	72	67	71	62	61
75歳以上	167	155	136	106	96	86

流出抑制、流入促進により自然増減ゼロ以上（パターン4）を目指す

- 小菅村では、第1期総合戦略策定時に目標とした2060年に「700人」を目標としていた。
- 移住先の多様化、新たな転入者を受け入れるための住居整備、学校や就職、後期高齢者に関連する医療、福祉環境等の様々な要因により現状では、当初目標値を大幅に下回っている。
- 現状から当初目標人数を達成しようとする場合、年間30人から40人の転入超過を実現する必要がある。日本全体で人口減少が進む中で、この目標を達成するための住居整備や福祉施設の担い手確保等に関連する整備には難しい点がある。
- このため、子育て・教育、産業、福祉等の取り組みを行うことで**現在の転出を抑え、転入を促進することで実現する「社会増減ゼロ以上（パターン4）」**を採用することとする。
- 総合計画においては、2031年時点で+6人の転入超過を目指しており、できる限りこれに到達するよう取り組むものとする。
- 合わせて、人口ビジョンの達成及び今後の更なる改善に向けては、村の資産である「1/2人口」とともに新たな村づくりのフェーズに入るものとする。

★なお、最新の数値については2025年度の国勢調査が完了し、最新値が公表された時点で更新する。

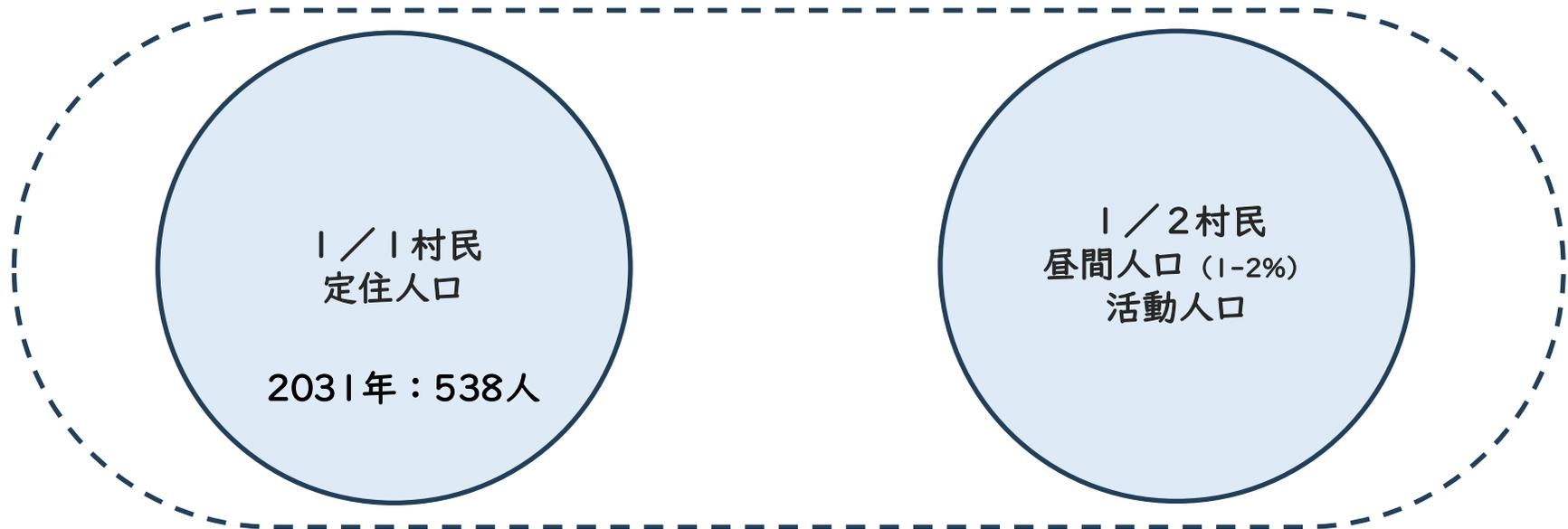
■人口ビジョンの修正方針



6. 小菅村が目指す姿

分数村民とともに村づくりを行う、次のフェーズへの展開

- 小菅村は新たな人口ビジョンにおいて、村に常に新たな流入があり、かつ施策を通じてできる限り人口流出を緩和することを目指している。
- 全体としての人口減少は避けられず10年後の2035年には517人、2040年には人口が400人台まで減少することとなる。場合によっては、複数の地区で著しく居住人口が減ることも考えられる。
- 村外に住み、村に働きに来ている昼間人口や、地域のお祭りや林道整備や農業などの地域づくりを共に活動する
1/2村民も含めて目標値を設定し、**人口が減っても小菅村の資源、文化を後世に残し、源流の村としての価値を持ち続ける村づくりを進める。**



ともに村づくりを行う未来型ビジョン
真の分数村民フェーズへの移行